

## 学会ポスター発表

日本食育学会第1回総会・第7回学術大会 (2013.5)

### 大学生による地域をフィールドにした食育推進の取り組み報告

#### ～食育サポーター事業 in 葛飾区「かつしか知っ得メモ」～

新村真由美\* 佐川敦子\*\* 植松節子\*\*\* 渡辺順子\*\*\*\* 鈴木三枝\*\*\*\*\* 高橋祥子\*\*\*\*\*

\*東京聖栄大学健康栄養学部

## 要旨

平成21年4月から本大学では、葛飾区が目標とする「元気なかつしか」の実現のための「葛飾区食育計画」で、大学と地域で行う食育推進事業(かつしか食育サポーター事業)に、食と健康に関する専門職の養成校である本校は、地域をフィールドにした新しい授業方法の1つとしてとらえ協力している。内容は、食育に関する栄養情報(愛称:かつしか知っ得メモ)を本学学生(3年生)が授業で作成し、食育サポーターとして登録した葛飾区内の店舗内に掲示することで、地域に栄養情報を発信し食育推進を図るものである。

このアクティブラーニングの新しい授業の取り組みとして行った「かつしか知っ得メモ」作成体験について、学生の意識調査を実施したのでその結果を報告した。学生達のアンケート結果からは、「かつしか知っ得メモ」の作成は、学生達にとって良い経験になったことが伺える。決められたテーマを限られた紙面にわかりやすく、パソコンを駆使して作成することや店舗のアンケートを集計することにより、自分たちの作成した栄養情報の評価が得られることは、地域をフィールドにした授業方法として、そして、本学がめざしている実社会ですぐに役立つ管理栄養士の養成に即しているといえる。手探りで始めた食育サポーター事業「かつしか知っ得メモ」も、今では葛飾区全域で158店(平成24年12月現在)に掲示されている。今後もこの事業が継続拡大して行くためには、内容や配布方法などについて検討し、地域の方達が面白いと読んでいただけるような工夫が必要であると考え。さらに産学官連携のもと、知恵を出し合い地域の方達が食生活に関心を持ち健康推進が図れるよう協力していきたい

## 学会ポスター発表

日本食品科学工学会2012年度関東支部大会(2013年3月9日、東京農業大学)

### コーヒー抽出液を用いて生育したマンネンタケの機能性成分の分析

青木 里紗\* ○渡邊 悟\*\*

(\*現東京家政大学大学院、東京聖栄大健康栄養学部管理栄養学科5期生、\*\*東京聖栄大学健康栄養学部)

## 要旨

【目的】ある種のコーヒー抽出液を用いてキノコ栽培が可能であり、マンネンタケにおいてはガノデリン酸類を製造できることが既に報告されている。生育した子実体には一般的にビタミンD2(VD2)やエルゴステロール(プロビタミンD2、プロビタミンD2、PVD2)も含まれる。そこで、コーヒー抽出液を用いて生育したマンネンタケ子実体に、これら機能性成分が含まれるかをHPLCおよびLC-MSで分析したので、ここに報告をする。

【方法】培地基材としてコーヒー抽出液のみを用いて生育したマンネンタケ子実体の細切したものをメタノールで攪拌して1時間静置し、ろ過したものをHPLCに供した。多波長検出器で主にガノデリン酸A(GA)、VD2、PVD2を追跡した。未知のピークもあったため、LC-MSもおこなった。

【結果】コーヒー抽出液を用いて生育したマンネンタケ子実体においてGA、PVD2が確実に生産されることが判明した。未知のピークについては、LC-MSによる質量の推定がなされた。VD2の生成には光照射が関与しており、現在検討中である。